

A L T - 2 4 データ管理ソフト

V 2

取扱説明書

高千穂産業株式会社

安全に関するご注意

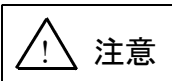
- ご使用前に、この「安全に関するご注意」と取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全に正しくお使い下さい。
- 安全上の注意事項を下記の様な表示で記載しております。表示の内容をよく理解してから本文をお読み下さい。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管して下さい。



取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。
軽傷または物的損害が発生する頻度が高い場合。



取扱いを誤った場合に、使用者が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合、ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。



してはならないことを示します。



しなければならないことを示します。

目 次

1. はじめに	1
2. ソフトのインストール方法	1
3. ソフトの削除方法	2
4. ALT-24とのデータ転送	3
5. ソフトの起動方法	4
6. スポットデータ読み込み	6
6-1. USBメモリから読み込み	
6-2. 保存ファイル読み込み	
6-3. スポットデータの編集	
6-4. データ表示	
6-5. 印刷	
6-6. メニューに戻る	
6-7. 全データ消去	
6-8. ファイルに保存	
7. OPTOSデータ転送	16
7-1. OPTOSファイル読み込み	
7-2. 保存ファイル読み込み	
7-3. メニューに戻る	
7-4. 選択削除	
7-5. 転送データ全削除	
7-6. USBメモリに転送	
7-7. OPTOSデータ編集	
7-8. データ表示	
8. OPTOSデータ読み込み	24
8-1. USBメモリから読み込み	
8-2. 保存ファイル読み込み	
8-3. 読み込みデータの編集	
8-4. データ表示	
8-5. 印刷	
8-6. メニューに戻る	
8-7. 全データ消去	
8-8. すべてファイルに保存	

目 次

9. ユーザー・ログ管理	30
9-1. ユーザー・パスワードの設定	
9-2. ログファイルの読み込み・保存	
9-3. メニューに戻る	
10. 保存データ変換	34
10-1. USBメモリに転送	
10-2. 選択削除	
10-3. メニューに戻る	
10-4. データの編集	
10-5. データ表示	
11. 終 了	36

1. はじめに

本ソフトは、当社の自動メタル回線試験システム（AL T-24）のデータ管理機能として、線管データ（OPTOSデータ）の転送、回線の試験結果の読み込み、試験成績表の出力と保存が可能です。

また、セキュリティ管理機能としてAL T-24のユーザー・パスワードの作成や使用記録（ログデータ）の読み込み・保存が可能です。

◎特長・仕様

- ・線管データとしてOPTOSデータファイル（Excelファイル）を読みめる
- ・一度に100ユニット（10,000回線分）まで転送可能
- ・AL T-24とのデータ転送にはUSBメモリを使用する
- ・試験結果は、試験成績表としてExcelに出力し、印刷、保存可能
- ・スポット試験の結果は、1,000回線分のデータから抽出し試験成績表を作成可能
- ・ユーザー、パスワードは100件まで作成、転送可能
- ・AL T-24のログイン記録を読み込み、表示、保存可能
- ・AL T-23の保存データは変換し、AL T-24で使用可能

◎動作環境

- ・対応OS : Windows 7/8/10 (32, 64bit) ※日本語版のみ対応
- ・必要ソフト : Microsoft Excel 2010/2013/2016のいずれか
- ・外部記憶装置 : USBメモリ (FAT16、FAT32フォーマット) ※データ転送に使用
- ・ファイル形式 : Excel (.XLS/.CSV)、保存ファイル (.CSX)
- ・その他 : CD-ROMドライブ (インストール時)

2. ソフトのインストール方法

※本ソフトはAL T-24専用です。他の製品では使用できません。

	注意	旧バージョンのAL T-24データ管理ソフトがインストールしてある場合は、旧バージョンのソフトを削除してください。異なるバージョンのソフトを混在させた場合、正常に動作しない可能性があります。
--	-----------	---

- 1) パソコンを起動します。OSの管理者権限でのログオンが必要です。
- 2) 「AL T-24 データ管理ソフト システムディスク」をCDドライブに入れます。
- 3) 自動的にインストールソフトが起動します。

○自動的にインストールが開始しない場合

パソコンを操作し、CD内の「SETUP.EXE」を起動してください。

- Windows8／Windows10の場合の「SETUP.EXE」起動例
 - ①デスクトップ画面より、エクスプローラーを開きます。
 - ②「CDドライブ」または「DVD RWドライブ」をダブルクリックします。
 - ③「SETUP.EXE」をダブルクリックします。
- Windows7の場合の「SETUP.EXE」起動例
 - ①画面左下のスタートメニューから「コンピューター」を選択します。
 - ②「CDドライブ」または「DVD RWドライブ」をダブルクリックします。
 - ③「SETUP.EXE」をダブルクリックします。
- 4) インストールソフトの起動後、必要に応じて入力または変更を行ってください。
 - ①ようこそ・・・ 内容を確認し「次へ」をクリックします。
 - ②インストール・・・ インストールの設定内容を確認し「インストール」をクリックします。
- 5) インストールの完了が表示されたら、「完了」をクリックしてください。
以上でインストールは終了です。ディスクは、大切に保管しておいてください。

3. ソフトの削除方法

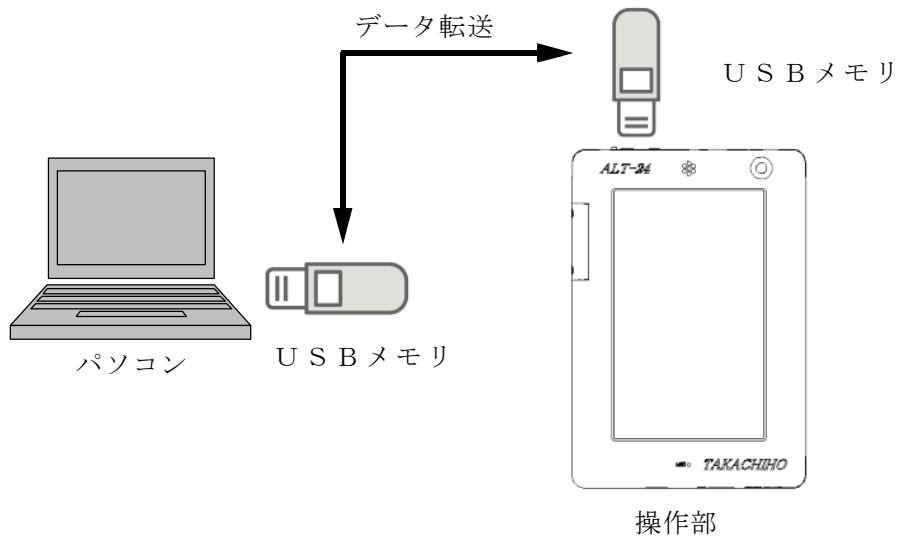
ソフトの削除は、Windowsのバージョン毎に操作が異なります。
下記手順で削除を行ってください。

- Windows8／Windows10の場合
 - ①デスクトップ画面左下のスタートボタンにマウスカーソルを合わせ、マウスを右クリックして、一覧からコントロールパネルをクリックします。
 - ②「コントロールパネル」内の「プログラムと機能」をクリックします。
 - ③表示されているソフトウェアの一覧から「ALT-24 データ管理ソフトVx.xx」を選択し、「アンインストール」をクリックします。
(Vx.xxはインストールしたソフトのバージョンが表示されます)
- Windows7の場合
 - ①画面左下のスタートメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
 - ②「コントロールパネル」内の「プログラムのアンインストール」をクリックします。
 - ③表示されているソフトウェアの一覧から「ALT-24 データ管理ソフトVx.xx」を選択し、「アンインストール」をクリックします。

以降は、画面に表示される内容に従って削除を進めてください。

4. ALT-24とのデータ転送

パソコンとALT-24間でのデータ転送は、USBメモリにデータを書込み、または読み込むことで行います。(USBメモリは付属しません)
転送の際にデータが損失しないよう、USBメモリの取扱説明書に従って、よく注意して操作してください。
USBメモリに書き込まれるデータは、秘密保護のため暗号化されています。

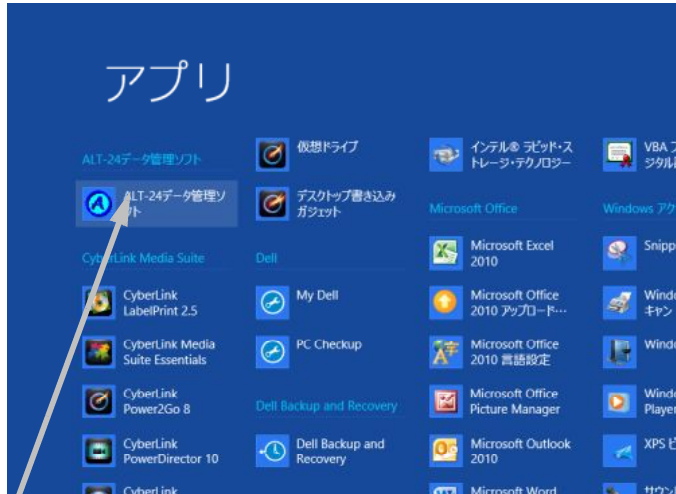


(図4-1)

5. ソフトの起動方法

インストールしたソフトを起動する方法について以下に説明します。
※以降、説明はWindows8の操作手順の例、表示画面になります。

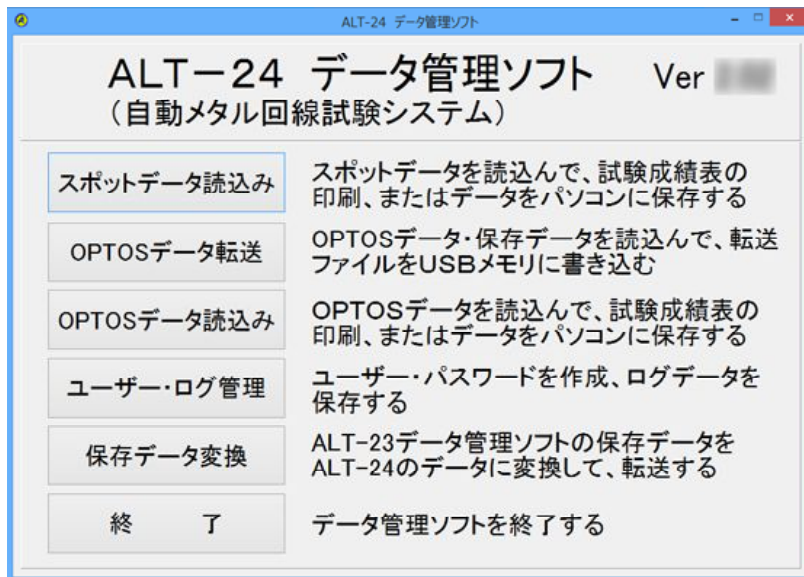
アプリの中から、「ALT-24データ管理ソフト」をクリックしてください。
(図5-1)



(図5-1)

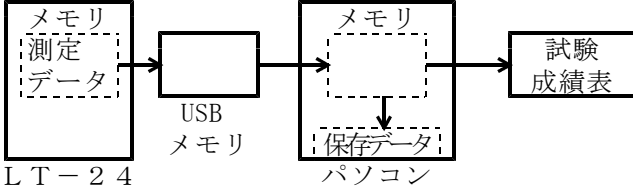
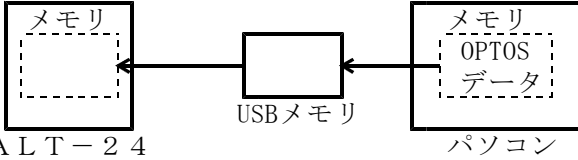
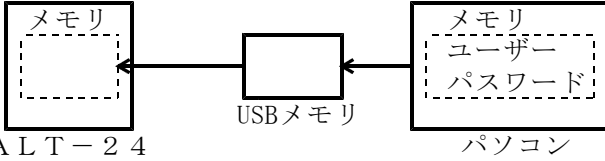
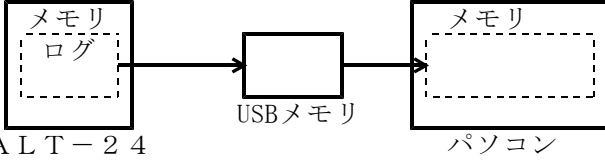
ALT-24データ管理ソフト

以上の操作により、メインメニューが表示されます。(図5-2)



(図5-2)

メインメニューの各ボタンの機能

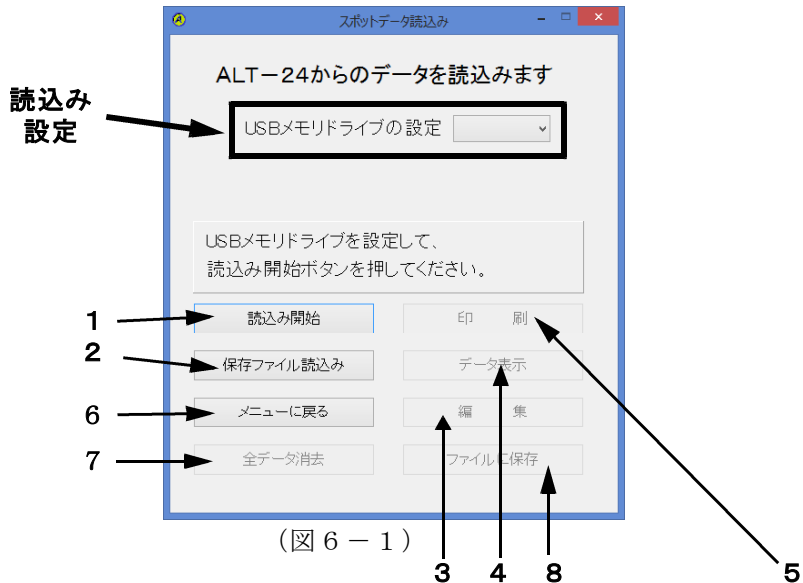
項目	機能の概要	掲載ページ
<p>スポットデータ読み込み</p>	<p>スポット試験の測定データをALT-24からパソコンに転送してファイルへ保存、試験成績表の印刷を行います。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-24</p> <p>パソコン</p>	<p>6～14</p>
<p>OPTOSデータ転送</p>	<p>OPTOSデータをパソコンからALT-24に転送します。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-24</p> <p>パソコン</p>	<p>15～22</p>
<p>OPTOSデータ読み込み</p>	<p>OPTOS試験の測定データをALT-24からパソコンに転送してファイルへ保存、試験成績表の印刷を行います。</p>	<p>23～28</p>
<p>ユーザー・ログ管理</p>	<p>ユーザー・パスワード設定のデータをパソコンからALT-24に転送します。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-24</p> <p>パソコン</p> <hr/> <p>ALT-24のログファイルをパソコンに転送します。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-24</p> <p>パソコン</p>	<p>29～31</p>
<p>保存データ変換</p>	<p>パソコン内にあるALT-23の保存データをALT-24のデータに変換します。</p>	<p>32～34</p>

6. スポットデータ読み込み

メインメニューの「スポットデータ読み込み」を選択するとスポットデータ読み込みの画面が表示されます。(図6-1)

ALT-24のスポット試験の測定データをUSBメモリに転送しておき、この画面でパソコンに読み込みます。

読込んだデータはファイルに保存したり、試験成績表を作成してプリンタで印刷を行います。



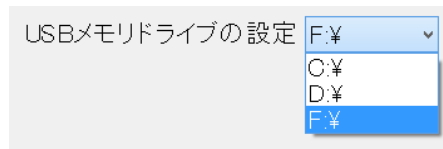
(図6-1)

6-1. USBメモリから読み込み

※スポット試験の測定データを転送したUSBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

1) 読み込み設定

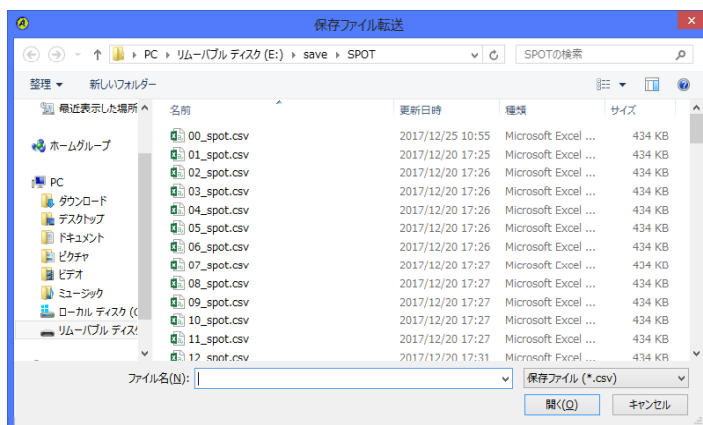
「USBメモリドライブの設定」で、USBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図6-2)



(図6-2)

2) 読み込み

「読み込み開始」をクリックすると、USBメモリにあるスポット試験の測定データのフォルダが開きます。



3) ファイル選択

フォルダから読み込みたいファイルを選択して開くをクリックしてください。スポット試験の測定データがデータ管理ソフトに読み込まれます。

測定データは最大100件までUSBメモリに保存することができます。

100件保存されて、ALT-24から保存できない場合は、USBメモリのsave¥SPOTフォルダのファイルを削除してください。

00_spot.csv : 測定データ

00_MachineNumber.txt : 00_spot.csvの機器番号ファイル

6-2. 保存ファイル読み込み

ALT-24データ管理ソフトで保存したスポットデータを読み込みます。

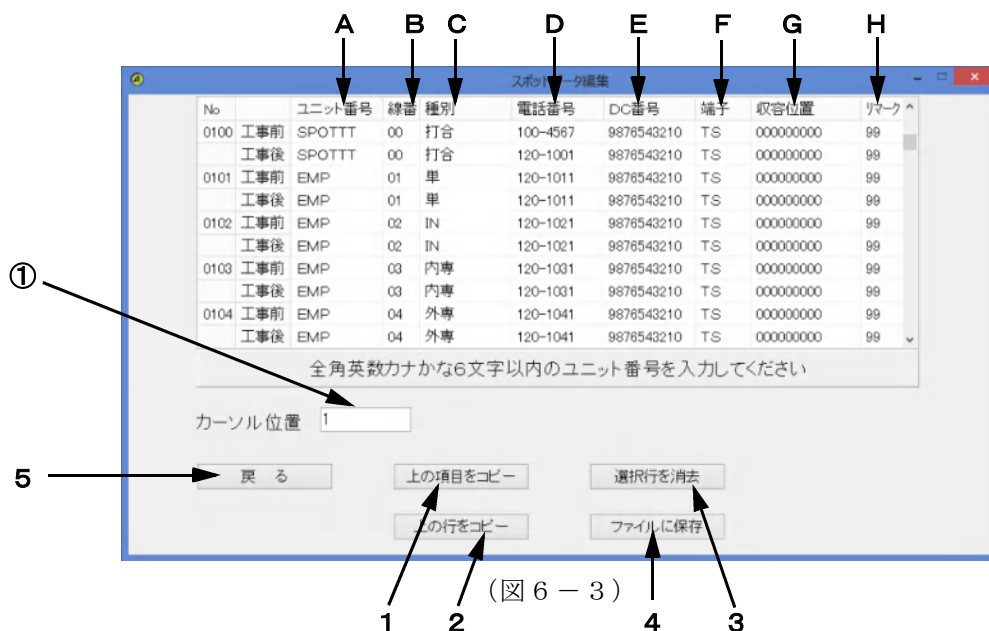
「保存ファイルを読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になりますので、保存したファイル (*.csv) を選択し「開く」をクリックしてください。

6-3. スポットデータの編集

「編集」をクリックすると、「スポットデータ編集」に移動します。
ここでは、読込んだスポットデータのユニット番号、線番等を編集することができます。

※測定結果は、編集することができません。

枠の右端のスクロールバー等で変更したい番号までカーソルを移動し、変更する項目をクリックして、入力してください。



(図 6-3)

6-3-1. 項目の内容

- A. ユニット番号 (全角英数・カナ・かな 6 文字以内)
読込んだユニット番号を表示します。
- B. 線 番 (2 桁数字)
読込んだ線番を表示します。
- C. 種 別 (6 文字以内)
回線の種別を表示します。
- D. 電話番号 (5 桁～10 桁数字)
読込んだ電話番号が表示されます。
- E. DC 番号 (5 桁～10 桁数字)
読込んだDC 番号が表示されます。
- F. 端 子
端子の種類を設定します。スペースキーを押すと、「TS」と「R 端子」が交互に切替ります。初期値は「TS」(試験弾器)です。

G. 収容位置（半角9桁数字）

H. リマーク（半角2数字）

収容位置とリマークの情報は、必要によりそれぞれ入力します。
初期値は収容位置、リマークともにすべて「0」です。

6-3-2. 表示

①カーソル位置

編集している際のカーソル位置を表示します。

6-3-3. 機能・動作

1) 上の項目をコピー

カーソルの上にあるデータが、カーソル位置にコピーされます。

2) 上の行をコピー

カーソルの上にある行のデータが、カーソル位置のある行にコピーされます。

3) 選択行を消去

カーソルのある行のデータが全項目削除されます。

削除後は初期値として、端子に「TS」、収容位置、リマークに「0」が内部で設定されます。

4) ファイルに保存

編集したデータを保存ファイルとして保存することができます。

「ファイルに保存」をクリックすると、「名前を付けて保存」のウィンドウが表示されますので、ファイルを保存する場所、ファイル名を設定して保存します。

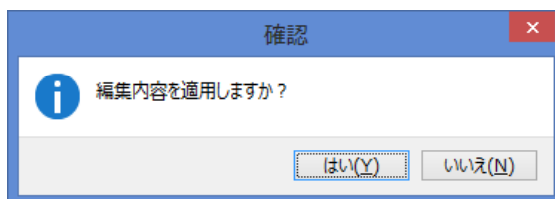
ファイル名は標準で、保存する時刻を元にして、

年2桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁+「_SPOT. csy」

と設定されます。

5) 戻る

「戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図6-4)



(図6-4)

「はい」をクリック : 編集したスポットデータの変更内容を適用して、「スポットデータ読み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 編集したスポットデータの変更内容を破棄して、「スポットデータ読み」に戻ります。
(データは編集前のものに戻ります)

6-4. データ表示

「データ表示」をクリックすると、読込んだスポット試験の測定データが表示されます。(図6-5)




(図6-5)

「戻る」 : 前の画面に戻ります。

「Excelに表示」 : Excelを起動して、画面に表示されたデータを自動的にExcelに表示します。(図6-6)
データ量が多いため、表示されるまで時間がかかる場合があります。

No	前後	エンポート番号	線管	種別	電話番号	DC番号	端子	取付位置	リーク	測定日	ユーザー名	ジョイントキー
1	工事前	TEST	01	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
2	工事後		01	単	1-1234		TS	00000000	00			
3	工事前	TEST	02	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
4	工事後		02	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/10/02	W	
5	工事前	TEST	03	単	11-2345		R端子	00000000	00	2013/09/11	D	○
6	工事後		03	単	11-2345		R端子	00000000	00	2013/09/11	D	○
7	工事前	TEST	04	単	2-2221		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
8	工事後		04	単	2-2221		TS	00000000	00			
9	工事前	TEST	05	IN	65-5355		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
10	工事後		05	IN	65-5355		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
11	工事前	TEST	06	単			TS	00000000	00	2013/10/07	W	
12	工事後		06	単			TS	00000000	00			
13	工事前	TEST	07	単	1-1111		TS	00000000	00	2013/10/08	W	
14	工事後		07	単	1-1111		TS	00000000	00			
15	工事前	TEST	08	単			TS	00000000	00			
16	工事後		08	単			TS	00000000	00			
17	工事前	TEST	09	単			TS	00000000	00			
18	工事後		09	単			TS	00000000	00			
19	工事前	TEST	10	単			TS	00000000	00	2013/10/02	W	
20	工事後		10	単			TS	00000000	00			
21	工事前	TEST	11	単			TS	00000000	00	2013/10/02	W	
22	工事後		11	単			TS	00000000	00			
23	工事前	TEST	12	単			TS	00000000	00			
24	工事後		12	単			TS	00000000	00			

(図 6 - 6)



注意

- 測定データを表示するには、Excelがインストールされている必要があります。
- 測定データを表示する際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。

6 - 5. 印刷

「印刷」をクリックすると、スポット試験の試験成績表を作成できます。(図 6 - 7)

スポットデータ試験成績表設定

試験成績表タイトル編集

工事名1 全角15字まで

工事名2 全角15字まで

ビル名 全角7字まで

施工者名 全角10字まで

測定年月日 > (入力例 2011/01/01) ユニット番号 印刷対象を選択 固配番号 半角6文字まで

印刷開始番号 (1~1000) 同じユニット番号が無い場合は"1"のままある場合は開始番号を入力する

絶縁抵抗判定値(現用回線) MΩ(入力例 0.10~50.00) 容量判定方法 測定値 レ点 μF(入力例 0.01~9.99)

絶縁抵抗判定値(空回線) MΩ(入力例 0.10~50.00)

戻る 成績表作成 終了

1) 2) (図 6 - 7) 3)

6-5-1. 設定の項目

- A. 工事名 1
工事名を入力します。試験成績表の工事名欄の上段に記載されます。
全角 15 文字まで入力できます。
- B. 工事名 2
工事名を入力します。試験成績表の工事名欄の下段に記載されます。
全角 15 文字まで入力できます。
- C. ビル名
ビル名を入力します。全角 7 文字まで入力できます。
- D. 施工者名
施工者名を入力します。全角 10 文字まで入力できます。
- E. 測定年月日
測定年月日を入力します。半角の数字で年/月/日を入力します。
- F. ユニット番号
読込んだデータにあるユニット番号を選択し、一致したユニットが抽出されます。
入力欄の右端の▼を押すと読込んだデータにあるユニット番号のリストが表示
されます。(最大 20)
リストにない場合は、ユニット番号を入力します。全角 6 文字まで入力できます。
空欄にすると、印刷開始番号から連続 100 データが抽出されます。
- G. 固配番号
回線の固配番号を入力します。半角の数字で 6 桁まで入力できます。
- H. 印刷開始番号
読込んだデータから抽出を開始する番号を、半角の数字で 1 ~ 1000 の範囲で
入力します。
「F. ユニット番号」でユニット番号を指定した場合は、同名のユニット番号が
2 カ所以上にあると先にあるデータが取込まれるため、開始番号を指定して
抽出したいデータを選択することができます。
- I. 絶縁抵抗判定値(現用回線)
現用回線(電話番号がある回線)の絶縁抵抗の良否を判定する値を入力します。
抵抗値が判定値以上の場合、レ点に記載されます。
抵抗値が判定値未満の場合、測定値が記載されます。
- J. 容量判定方法
容量判定の方法を設定します。
「レ点」を選択すると、容量値が判定値以上の場合、レ点に記載されます。
容量値が判定値未満の場合、空欄になります。
「測定値」を選択すると、測定した容量値が記載されます。
- K. 絶縁抵抗判定値(空回線)
空回線(電話番号がない回線)の絶縁抵抗の良否を判定する値を入力します。
抵抗値が判定値以上の場合、レ点に記載されます。
抵抗値が判定値未満の場合、測定値が記載されます。

6-5-2. 機能・動作

1) 戻る

「戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図6-8)




(図6-8)

「はい」をクリック : 編集した成績表設定が消去され「スポットデータ読み込み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 編集した成績表設定は消去されずに戻ります。

2) 成績表作成

「成績表作成」をクリックすると、Excelで試験成績表を作成します。

 注意	<ul style="list-style-type: none">試験成績表を作成するためには、Excelがインストールされている必要があります。試験成績表を作成する際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。
---	--

○テンプレート (図6-9)

①工事前／後の線番データ (線番、種別、電話番号 (局番を除く))、および測定データ (絶縁抵抗、容量、ループ抵抗、着信、線番確認、220Hz確認) が、試験成績表に記載されます。

電話番号が設定されている場合の絶縁抵抗は現用回線の欄に、電話番号が空欄の場合は空回線の欄に記載されます。

②試験に使用したALT-24の機器番号は、試験成績表の上段に記載されます。

③保存について

試験成績表を保存する場合は、Excelの保存方法に従い、Excel形式のファイルで保存されます。

④印刷について

試験成績表を印刷する場合は、Excelから印刷します。

試験成績表はA4縦×4枚 (1枚につき25回線分) に印刷されます。

【試験成績表】テンプレート

市内ケーブル工事試験成績表

工事名	ビル名	ケーブル名 ユニット番号	測定年月日	測定器 心線対照器 ALT-24	固配番号	施工者名
-----	-----	-----------------	-------	------------------------	------	------

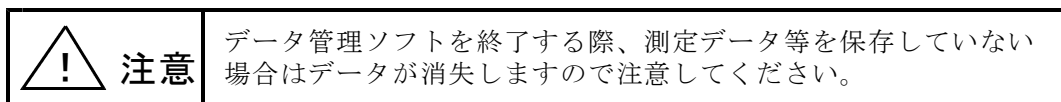
局 線 番 号	線 番 号	電話番号		現用回線						空回線			線 番 確 認	L1 L2 0 Hz 確 認	対照区間
				絶縁抵抗 MΩ	容 量	ループ抵抗 (Ω)	着 信	回線極性試験	共同 甲乙識別	秘 話	絶縁抵抗 MΩ				
		L1 -E	L2 -E								L1 L2	記 事			
1	前後	種別	電番												
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
6	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
10	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
11	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
15	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
16	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
20	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
21	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
25	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														
	前後														

(図 6 - 9)

3) 終了

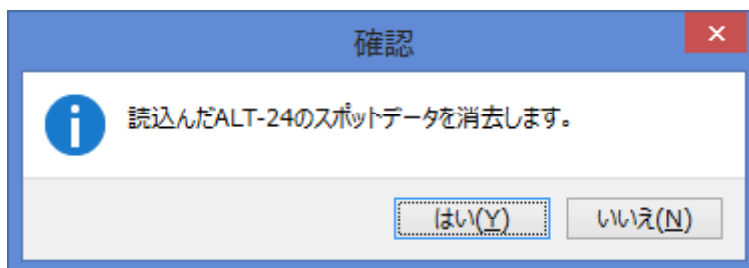
「終了」をクリックすると、確認画面が表示されます。

「はい」をクリックすると、データ管理ソフトを終了します。



6-6. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図6-10)



(図6-10)

「はい」をクリック : 読込んだスポットデータが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだスポットデータは消去されずに戻ります。

6-7. 全データ消去

「全データ消去」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図6-10)

「はい」をクリック : 読込んだスポット試験の測定データが消去され「スポットデータ読み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだスポット試験の測定データは消去されずに戻ります。

6-8. ファイルに保存

「ファイルに保存」をクリックすると、スポットデータをファイル保存できます。保存先フォルダを選択し、「OK」をクリックします。ファイル名は標準で、保存する時刻を元にして、

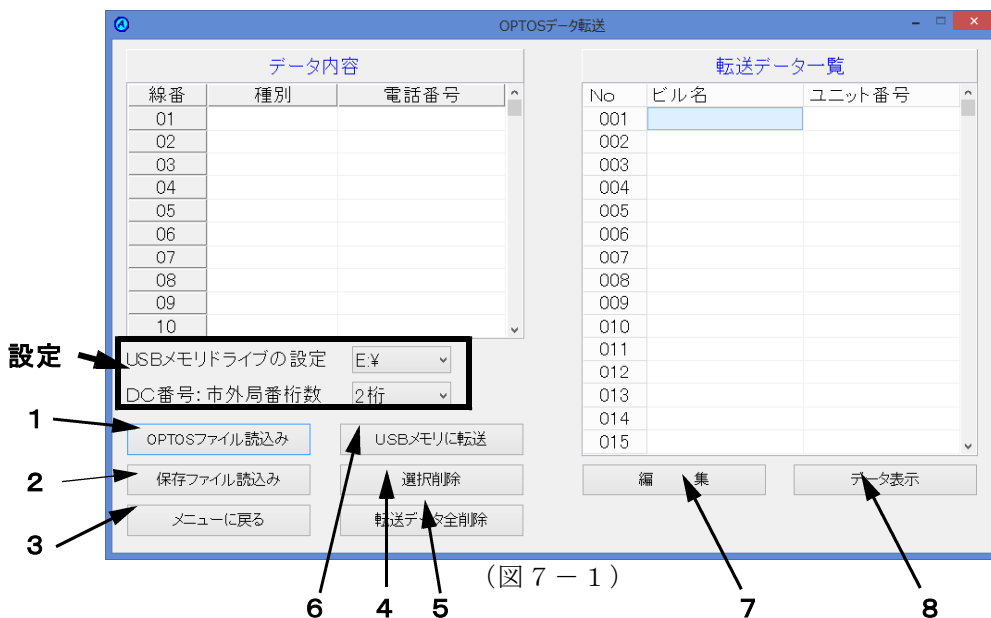
年2桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁+「_SPOT. csy」

と設定されます。

7. OPTOSデータ転送

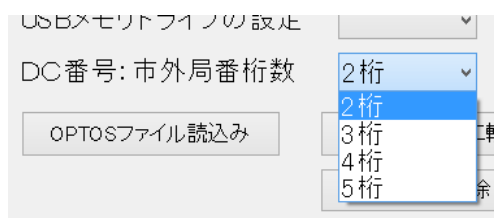
メインメニューの「OPTOSデータ転送」をクリックするとOPTOSデータ転送の画面（図7-1）が表示されます。ここでは、100回線ずつOPTOSデータファイルをパソコンから読み込み、「転送データ一覧」に割付けます。

これを必要回数繰り返します。「転送データ一覧」には、最大10,000回線分のOPTOSデータを割付けることができます。その後、「7-6. USBメモリに転送」でUSBメモリに一括で転送します。



7-1. OPTOSファイル読み込み

- 1) 「DC番号：市外局番桁数」から市外局番の桁数を選択してください。

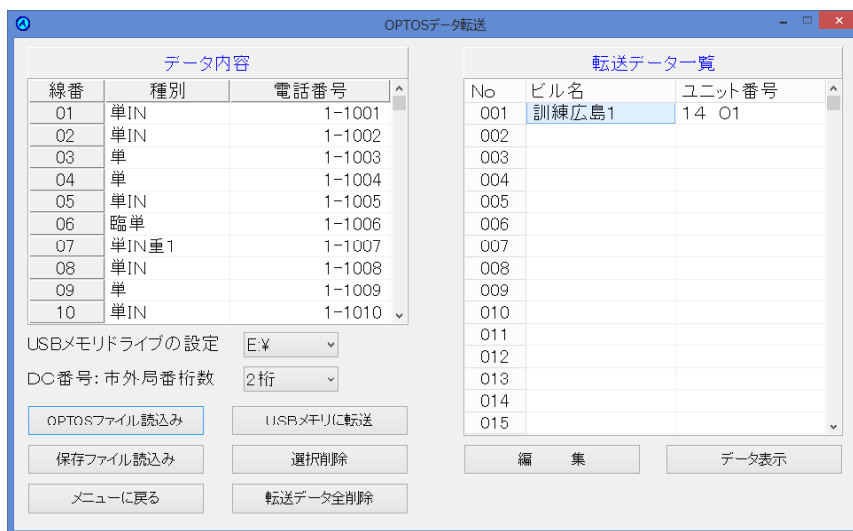


- 2) 「OPTOSファイル読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になります。
 (図 7-3)
 ファイルの保存場所へ移動し、OPTOSデータファイルを選択してください。




(図 7-3)

- 3) 読み込むファイルをクリックして選択した後、「開く」をクリックしてください。
 読み込んだOPTOSデータが、右側の「転送データ一覧」に移動します。
 左側の「データ内容」には、そのユニットの情報が表示されます。(図 7-4)



(図 7-4)

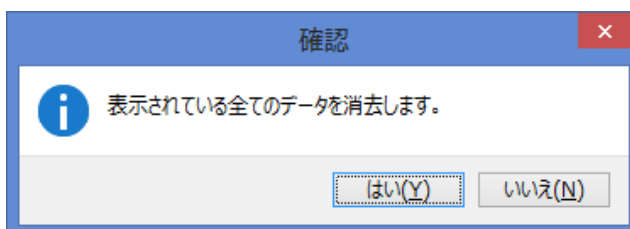
 注意	<ul style="list-style-type: none"> OPTOSデータファイル以外のファイルを選択してしまった場合は、エラーメッセージが表示されます。正しいファイルを選択し直してください。 OPTOSデータを読み込むには、Excelがインストールされている必要があります。 OPTOSデータを読み込む際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。
---	--

7-2. 保存ファイル読み込み

ALT-24データ管理ソフトで保存したデータを読み込むことができます。
「保存ファイルを読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になりますので、保存したファイル(*.csx)を選択し「開く」をクリックしてください。
読み込みが完了すると、OPTOS読み込みと同様に読込んだデータが「転送データ一覧」に表示されます。

7-3. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図7-5)



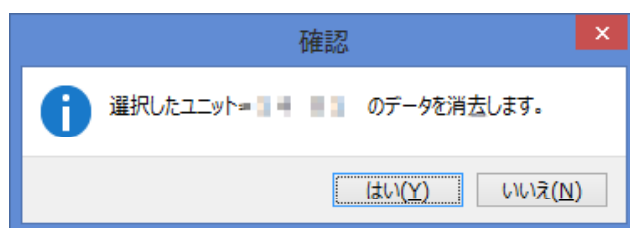
(図7-5)

「はい」をクリック : 読込んだOPTOSデータ、保存ファイルのデータが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。

7-4. 選択削除

「転送データ一覧」のデータを削除します。削除する転送データをクリックし、「選択削除」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図7-6)



(図7-6)

「はい」をクリック : 選択しているデータが消去されます。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。

7-5. 転送データ全削除

「転送データ全削除」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図7-5)

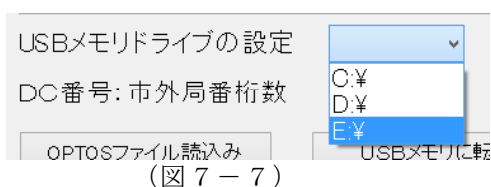
「はい」をクリック : 読込んだOPTOSデータ、保存ファイルのデータが消去されます。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。


7-6. USBメモリに転送

※USBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

- 1) 「USBメモリドライブの設定」からUSBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図7-7)



- 2) 上記の設定が完了しましたら、「USBメモリに転送」をクリックしてください。



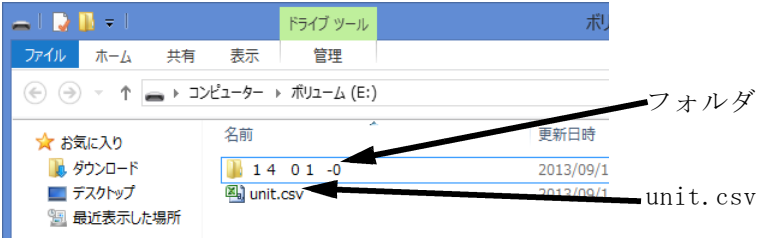
注意

USBメモリ内にOPTOS転送データが残っている場合、USBメモリ内のデータと新たに転送したデータが、ALT-24に転送されます。

USBメモリ内のOPTOS転送データが不要な場合、下記のファイルとフォルダ(中のファイルを含む)を削除してください。

○削除するファイル

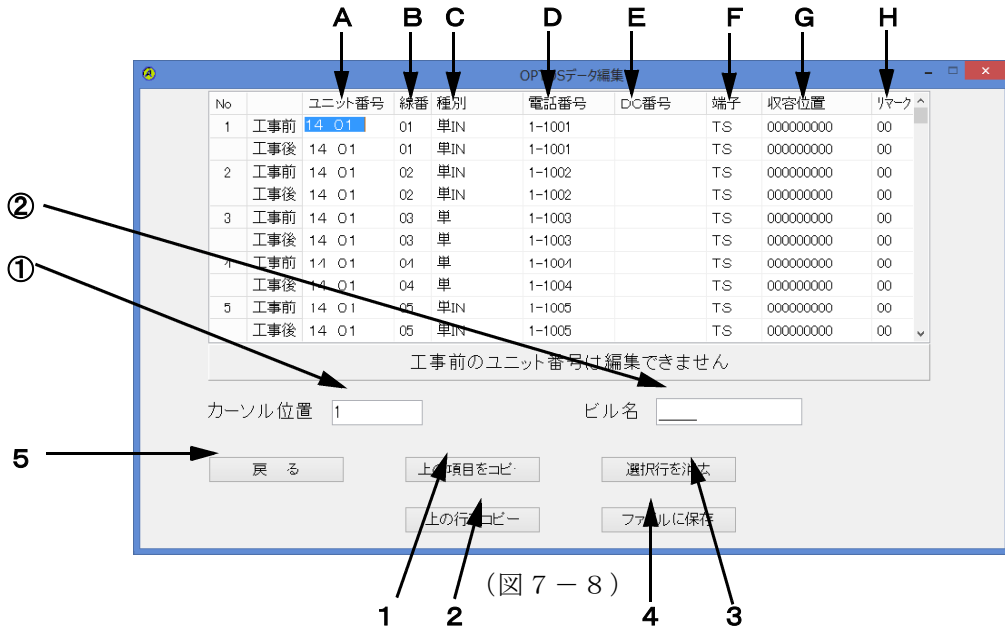
- ・ ユニット名 - * (フォルダ) *は0~9の数字
- ・ unit.csv



7-7. OPTOSデータ編集

「編集」をクリックすると「OPTOSデータ編集」に移動します。(図7-8)
ここでは、読込んだOPTOSデータを編集することができます。

枠の右端のスクロールバー等で変更したい番号までカーソルを移動し、変更する項目をクリックして、入力してください。



(図7-8)

7-7-1. 項目の内容

- A. ユニット番号 (全角英数・カナ・かな6文字以内)
OPTOSデータファイルから読込んだユニット番号を表示します。
※工事前のユニット番号は編集できません。
- B. 線番 (2桁数字)
OPTOSデータファイルから読込んだ線番を表示します。
※工事前の線番は編集できません。
- C. 種別 (6文字以内)
回線の種別を表示します。
- D. 電話番号 (5桁～10桁数字)
OPTOSデータファイルから読込んだ電話番号が表示されます。
- E. DC番号 (5桁～10桁数字)
OPTOSデータファイルから読込んだDC番号が表示されます。

F. 端子

端子の種類を設定します。スペースキーを押すと、「TS」と「R端子」が交互に切替ります。初期値は「TS」（試験弾器）です。

G. 収容位置（半角9桁数字）

H. リマーク（半角2数字）

収容位置とリマークの情報は、必要によりそれぞれ入力します。初期値は収容位置、リマークともにすべて「0」です。

7-7-2. 表示

①カーソル位置

編集している際のカーソル位置を表示します。

②ビル名（7文字以内）

OPTOSデータファイルから読込んだビル名が表示されます。

7-7-3. 機能・動作

1) 上の項目をコピー

カーソルの上にあるデータが、カーソル位置にコピーされます。

※編集のできない工事前のユニット番号、線番はコピーされません。

2) 上の行をコピー

カーソルの上にある行のデータが、カーソル位置のある行にコピーされます。

※編集のできない工事前のユニット番号、線番はコピーされません。

3) 選択行を消去

カーソルのある行のデータが全項目削除されます。

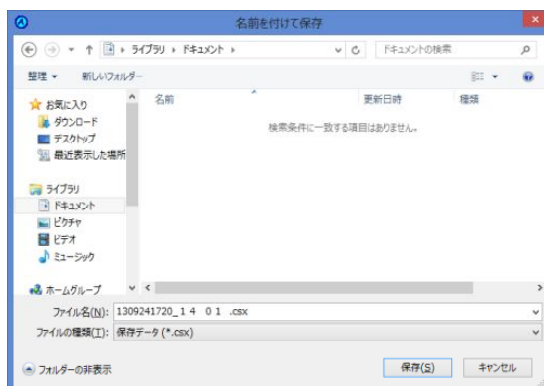
削除後は初期値として、端子に「TS」、収容位置、リマークに「0」が内部で設定されます。

※編集のできない工事前のユニット番号、線番は削除されません。

4) ファイルに保存

編集したデータを保存ファイルとして保存することができます。

「ファイルに保存」をクリックすると、「名前を付けて保存」のウィンドウが表示されますので、ファイルを保存する場所、ファイル名を設定して保存します。



(図 7 - 9)

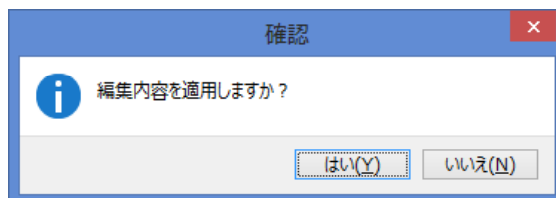
ファイル名は標準で、保存する時刻を元にして、

年2桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁+_ユニット番号」.csx

と設定されます。

5) 戻る

「戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図 7 - 1 0)



(図 7 - 1 0)

「はい」をクリック : 編集したOPTOSデータの変更内容を適用して、「OPTOSデータ転送」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 編集したOPTOSデータの変更内容を破棄して、「OPTOSデータ転送」に戻ります。
(データは編集前のものに戻ります)


7-8. データ表示

「データ表示」をクリックすると「読み込みデータ一覧」で選択しているユニットの測定データが表示されます。(図7-11)

No	前後	ユニット番号	線番	種別	電話番号 (ID)	DC番号	端子	取付位置	マーク	測定日	ユーザー名	シフト名	トレー結果	着信
1	工事前	1151	01	単	1-1234		15	00000000	00	2013/09/11	D		○	○
	工事後		01	単	1-1234		TS	00000000	00					
2	工事前	TEST	02	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/09/11	D			
	工事後		02	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/10/02	W			×
3	工事前	TEST	03	単	11-2345		R端子	00000000	00	2013/09/11	D		○	
	工事後		03	単	11-2345		R端子	00000000	00	2013/09/11	D		×	
4	工事前	TEST	04	単	2-2221		TS	00000000	00					
	工事後		04	単			TS	00000000	00					
5	工事前	TEST	05	IN	65-5355		TS	00000000	00	2013/09/11	D		○	
	工事後		05	IN	65-5355		TS	00000000	00	2013/09/11	D		○	
6	工事前	TEST	06	単			TS	00000000	00	2013/10/07	W			
	工事後		06	単			TS	00000000	00					
7	工事前	TEST	07	単	1-1111		TS	00000000	00	2013/10/09	W			○

(図7-11)

- 「戻る」 : 前の画面に戻ります
「Excelに表示」 : Excelを起動して、画面に表示されたデータを自動的にExcelに表示します。(図7-12)



注意

- 測定データを表示するには、Excelがインストールされている必要があります。
- 測定データを表示する際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。

No	前後	ユニット番号	線番	種別	電話番号	DC番号	端子	取付位置	マーク	測定日	ユーザー名	シフト名	トレー結果	着信
1	工事前	TEST	01	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/09/11	D		○	
4	工事前	TEST	02	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/09/11	D			
7	工事前	TEST	03	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/10/02	W			
10	工事前	TEST	04	単	11-2345		R端子	00000000	00	2013/09/11	D		○	
13	工事前	TEST	05	IN	11-2345		R端子	00000000	00	2013/09/11	D		○	
16	工事前	TEST	06	単	2-2221		TS	00000000	00	2013/09/11	D			
19	工事前	TEST	07	単	65-5355		TS	00000000	00	2013/09/11	D		○	
22	工事前	TEST	08	IN	65-5355		TS	00000000	00	2013/10/07	W		○	
25	工事前	TEST	09	単			TS	00000000	00	2013/10/08	W			
28	工事前	TEST	10	単	1-1111		TS	00000000	00					
31	工事前	TEST	11	単			TS	00000000	00					
34	工事前	TEST	12	単			TS	00000000	00					

(図7-12)

8. OPTOSデータ読み込み

メインメニューの「OPTOSデータ読み込み」を選択するとOPTOSデータ読み込みの画面が表示されます。(図8-1)

ALT-24のOPTOS試験の測定データをUSBメモリに転送しておき、この画面でパソコンに読み込みます。

読み込んだデータはファイルに保存したり、試験成績表を作成してプリンタで印刷を行います。

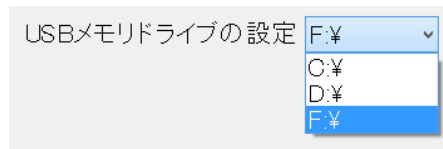


8-1. USBメモリから読み込み

※OPTOS試験の測定データを転送したUSBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

1) 読み込み設定

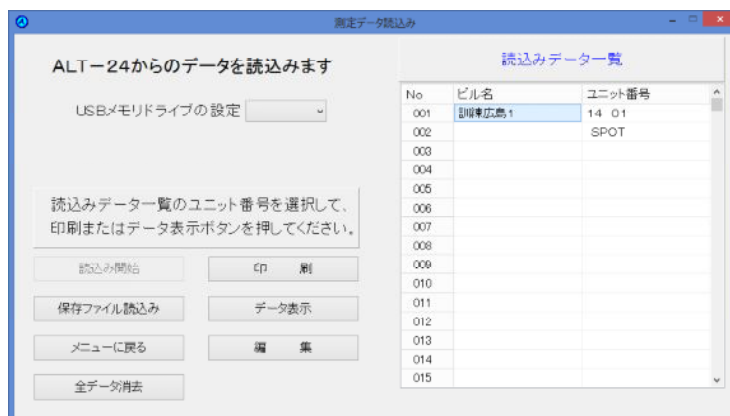
「USBメモリドライブの設定」で、USBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図8-2)



(図8-2)

2) 読み込み

「読み込み開始」をクリックすると、USBメモリにあるOPTOS試験の測定データの読み込みを開始します。読み込んだデータは、読み込みデータ一覧に表示されます。



(図 8-3)

	<p>注意</p> <p>USBメモリ内にOPTOS試験の測定データが101ユニット以上保存されている場合でも、「読み込み」は100ユニットまでです。USBメモリの「save」フォルダにある不要な測定データ（フォルダと中のファイル）を削除してください。 ※フォルダ名：save¥ユニット名 - * (*は0~9の数字)</p>
--	--

8-2. 保存ファイル読み込み

ALT-24データ管理ソフトで保存したOPTOS試験データを読み込みます。「保存ファイルを読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になりますので、保存したファイル (*.csx) を選択し「開く」をクリックしてください。読み込みが完了するとOPTOS読み込みと同様に「読み込みデータ一覧」に表示されます。

8-3. 読み込みデータの編集

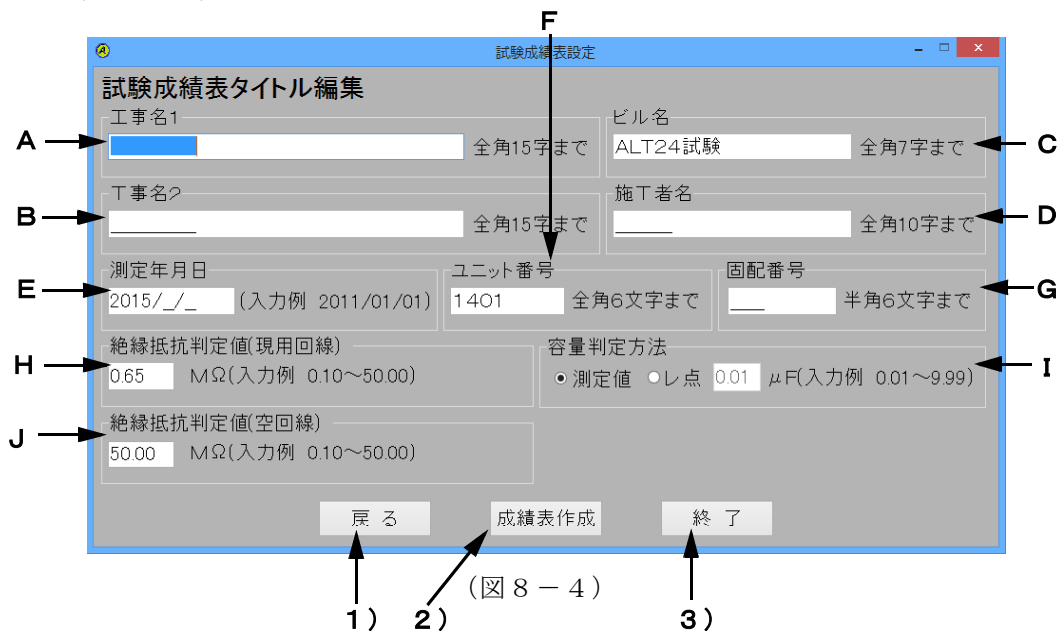
「編集」をクリックすると、「読み込みデータ編集」に移動します。ここでは、読み込んだ測定データのユニット番号、線番等を編集することができます。※「7-7. OPTOSデータ編集」と同じです。そちらを参照してください。
※測定結果は、編集することができません。

8-4. データ表示

「データ表示」をクリックすると、「読み込みデータ一覧」で選択しているユニットの測定データが表示されます。※「7-8. データ表示」と同じです。そちらを参照してください。

8-5. 印刷

「印刷」をクリックすると、選択しているユニットの試験成績表を作成できます。
(図8-4)



8-5-1. 設定の項目

- A. 工事名1
工事名を入力します。試験成績表の工事名欄の上段に記載されます。
全角15文字まで入力できます。
- B. 工事名2
工事名を入力します。試験成績表の工事名欄の下段に記載されます。
全角15文字まで入力できます。
- C. ビル名
ビル名を入力します。全角7文字まで入力できます。
読込んだデータに入力されている場合は、自動で表示されます。
- D. 施工者名
施工者名を入力します。全角10文字まで入力できます。
- E. 測定年月日
測定年月日を入力します。半角の数字で年/月/日を入力します。
- F. ユニット番号
ユニット番号を入力します。全角6文字まで入力できます。
読込んだデータに入力されている場合は、自動で表示されます。

G. 固配番号

回線の固配番号を入力します。半角の数字で6桁まで入力できます。

H. 絶縁抵抗判定値(現用回線)

現用回線(電話番号がある回線)の絶縁抵抗の良否を判定する値を入力します。
抵抗値が判定値以上の場合、レ点に記載されます。
抵抗値が判定値未満の場合、測定値に記載されます。

I. 容量判定方法

容量判定の方法を設定します。

「レ点」を選択すると、容量値が判定値以上の場合、レ点に記載されます。
容量値が判定値未満の場合、空欄になります。

「測定値」を選択すると、測定した容量値が記載されます。

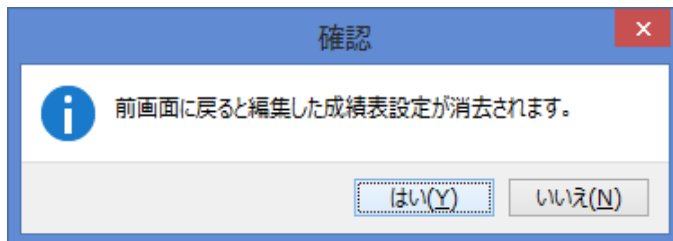
J. 絶縁抵抗判定値(空回線)

空回線(電話番号がない回線)の絶縁抵抗の良否を判定する値を入力します。
抵抗値が判定値以上の場合、レ点に記載されます。
抵抗値が判定値未満の場合、測定値が記載されます。

8-5-2. 機能・動作

1) 戻る

「戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図8-5)




(図8-5)

「はい」をクリック : 編集した成績表設定が消去され、「測定データ読み込み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 編集した成績表設定は消去されずに戻ります。

2) 成績表作成

「成績表作成」をクリックすると、Excelで試験成績表を作成します。

 注意	<ul style="list-style-type: none">・試験成績表を作成するためには、Excelがインストールされている必要があります。・試験成績表を作成する際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。
---	--

○テンプレート（図6-9と同じ）

①工事前／後の線番データ（線番、種別、電話番号（局番を除く））、および測定データ（絶縁抵抗、容量、ループ抵抗、着信、線番確認、220Hz確認）が、試験成績表に記載されます。

電話番号が設定されている場合の絶縁抵抗は現用回線の欄に、電話番号が空欄の場合は空回線の欄に記載されます。

②試験に使用したALT-24の機器番号は、試験成績表の上段に記載されます。

③保存について

試験成績表を保存する場合は、Excelの保存方法に従い、Excel形式のファイルで保存されます。

④印刷について


試験成績表を印刷する場合は、Excelから印刷します。

試験成績表はA4縦×4枚（1枚につき25回線分）に印刷されます。

3) 終了

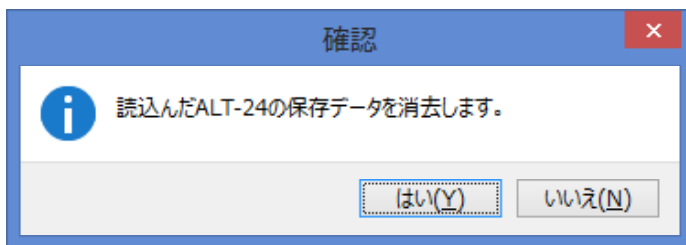
「終了」をクリックすると、確認画面が表示されます。

「はい」をクリックすると、データ管理ソフトを終了します。

 注意	データ管理ソフトを終了する際、測定データ等を保存していない場合はデータが消失しますので注意してください。
---	--

8-6. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図8-6)



(図8-6)

「はい」をクリック : 読込んだ測定データが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだ測定データは消去されずに戻ります。

8-7. 全データ消去

「全データ消去」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図8-6)

「はい」をクリック : 読込んだ測定データが消去され、「測定データ読込み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだ測定データは消去されずに戻ります。

8-8. すべてファイルに保存

「すべてファイルに保存」をクリックすると、「読込みデータ一覧」にある測定データを一括で保存できます。

保存先フォルダを選択し、「OK」をクリックします。

ファイル名は標準で、保存する時刻を元にして、

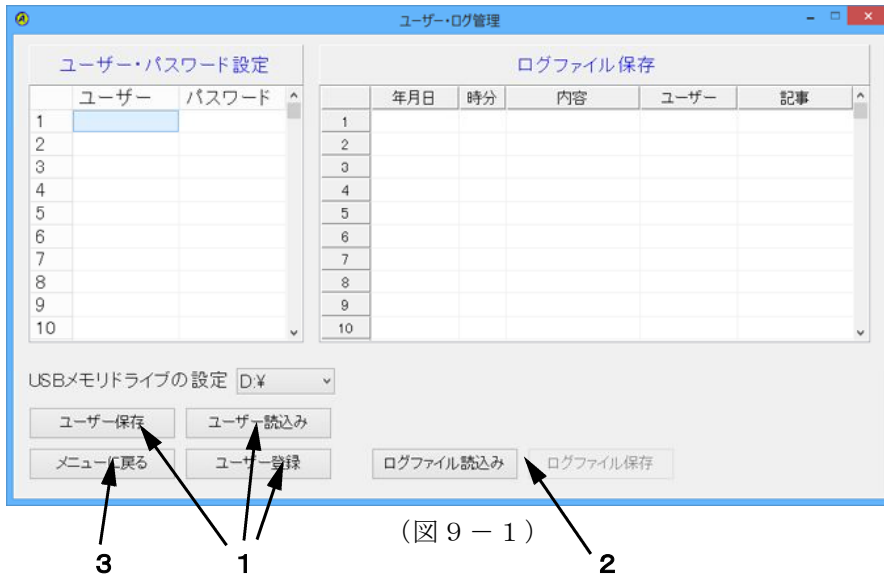
年2桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁+__ユニット番号+[枝番号]「.csx」

と設定されます。

※枝番号は同名のユニット番号がある場合「-1」～「-9」が付与されます。

9. ユーザー・ログ管理

ここでは、ALT-24のログイン時のユーザー・パスワードの設定とログデータの読み込み・保存が行えます。



9-1. ユーザー・パスワードの設定

- 1) ユーザー・パスワード入力
「ユーザー・パスワード設定」の選択した箇所にユーザー、パスワードを入力します。

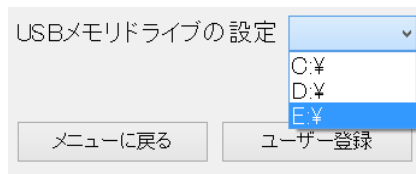
ユーザー	: 半角英数字 1文字以上、最大8文字
パスワード	: 半角英数字 1文字以上、最大8文字
登録件数	: 最大100件

	ユーザー	パスワード
1	A	A
2	B	B
3	C	C
4	D	D
5	E	E
6	F	F
7	G	G
8	H	H
9	I	I
10	J	J

(図 9-2)

※ユーザーのみ、パスワードのみの登録はできません。

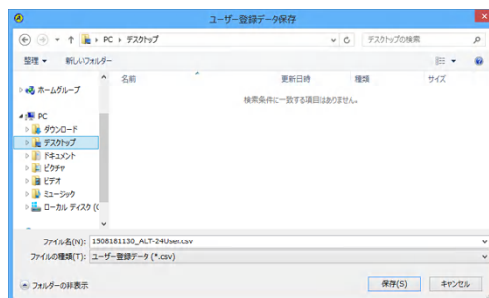
- 2) USBメモリへの転送
「USBメモリドライブの設定」からUSBメモリの接続されているドライブを選択し、「ユーザー登録」をクリックしてください。(図 9-3)



3) ユーザー保存

「ユーザー保存」をクリックするとファイル保存画面になりますので、ファイル名を入力して保存をクリックしてください。(図9-4)

「ユーザー・パスワード設定」に記載したユーザー・パスワードをCSV形式のファイルに保存することができます。

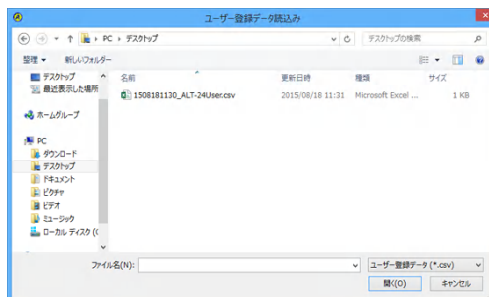


(図9-4)

4) ユーザー読み込み

「ユーザー読み込み」をクリックするとファイル選択画面になりますので、「ユーザー保存」で保存したファイルを選択してください。(図9-5)

保存したユーザー・パスワードを読み込むことができます。



(図9-5)

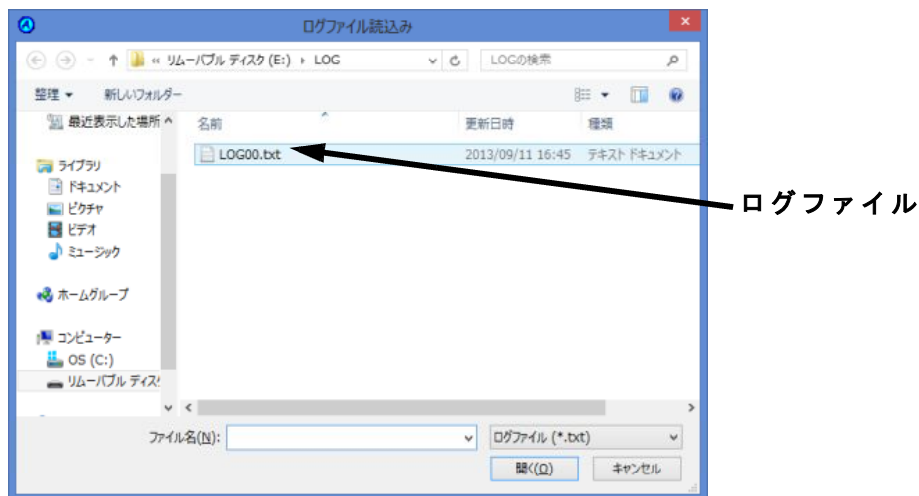
9-2. ログファイルの読み込み・保存

※AL T-24のログファイルを転送したUSBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

1) ログファイルの読み込み

「ログファイル読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になりますので、USBメモリ内のLOGフォルダからLOG00.txtのファイルを選択し、「開く」をクリックしてください。(図9-6)

ログファイルの保存場所・・・*:¥LOG
*はUSBメモリのドライブ



(図9-6)

ログファイルの読み込みが完了しますと、「ログファイル保存」にログデータが表示されます。(図9-7)



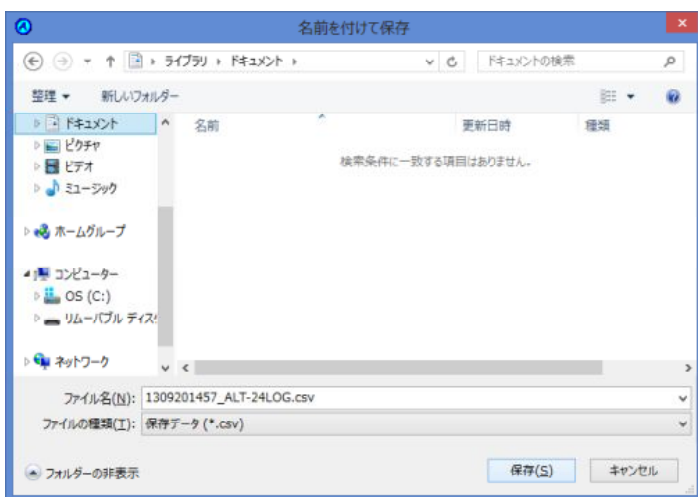
(図9-7)

- ログデータの内容について
ログの記録された年月日・時分、「ログイン」または「I回線試験設定」、
使用者（ユーザー名）が表示されます。

2) ログファイルの保存

ログファイルの読み込み後、「ログファイル保存」をクリックすると、「名前を付けて保存」のダイアログが出ますので、保存場所とファイル名を設定し、保存してください。（図9-8）

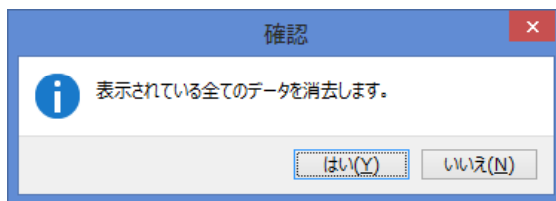
ログファイルは.csv形式で保存されます。



(図9-8)

9-3. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。（図9-9）



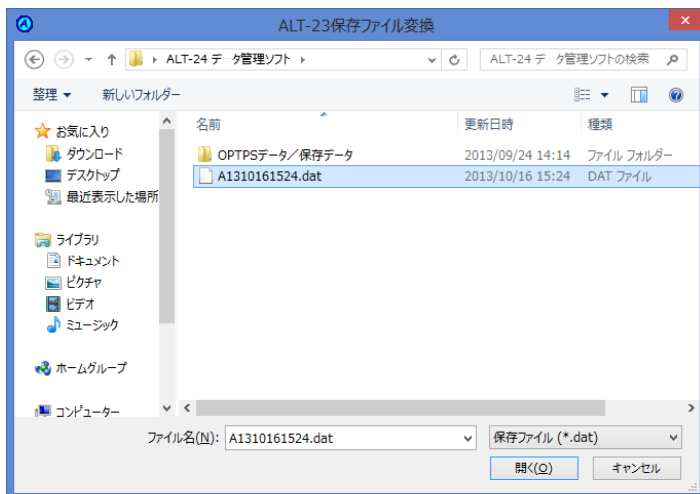
(図9-9)

「はい」をクリック : 入力したユーザー・パスワードおよび読込んだログデータが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : 入力したユーザー・パスワードおよび読込んだログデータは消去されずに戻ります。

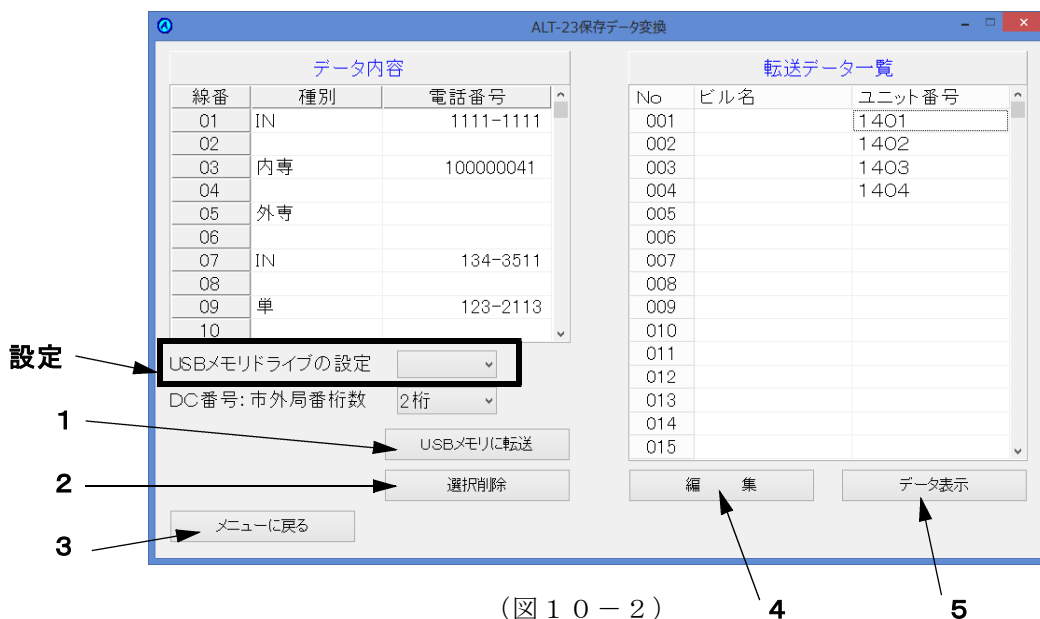
10. 保存データ変換

ここでは、ALT-23データ管理ソフトで保存したデータをALT-24用のデータに変換し、ALT-24に転送することができます。メインメニューの「保存データ変換」をクリックすると、ALT-23保存ファイルを選択する画面が表示されます。(図10-1) ファイル(.dat)を選択して開くをクリックしてください



(図10-1)

ファイルを読み込むと「ALT-23保存データ変換」の画面が表示されます。(図10-2)



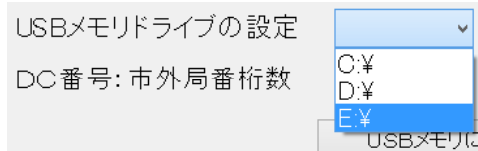
(図10-2)

複数のユニット番号が保存されている場合、ユニット番号ごとに分けられ「転送データ一覧」に表示されます。ユニット番号のない線番はスキップし、読み込みを行いません。

10-1. USBメモリに転送


※USBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

- 1) 「USBメモリドライブの設定」からUSBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図10-3)



(図10-3)

- 2) 上記の設定が完了しましたら、「USBメモリに転送」をクリックしてください。



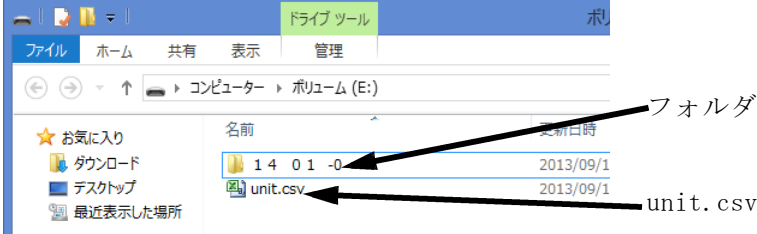
注意

USBメモリ内にOPTOS転送データが残っている場合、USBメモリ内のデータと新たに転送したデータが、ALT-24に転送されます。

USBメモリ内のOPTOS転送データが不要な場合、下記のファイルとフォルダ(中のファイルを含む)を削除してください。

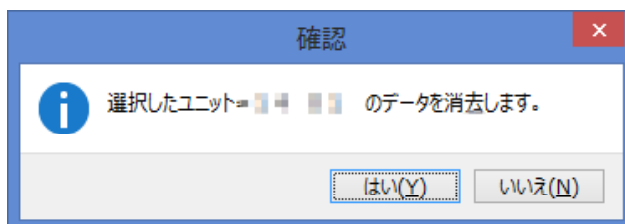
○削除するファイル

- ・ ユニット名 - * (フォルダ) *は0~9の数字
- ・ unit.csv



10-2. 選択削除

「選択削除」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図10-4)



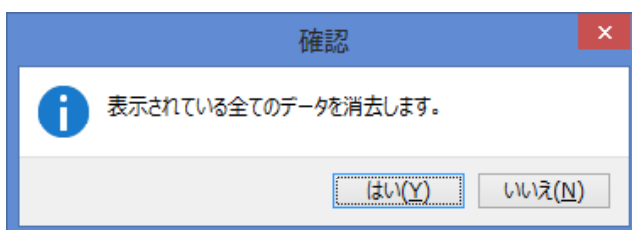
(図10-4)

「はい」をクリック : 選択しているデータが消去されます。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。

10-3. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図10-5)



(図10-5)

「はい」をクリック : データが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。

10-4. データの編集

「編集」をクリックすると、「ALT-23保存データ編集」に移動します。
ここでは、読込んだデータのユニット番号、線番等を編集することができます。
※「7-7. OPTOSデータ編集」と同じです。そちらを参照してください。
※測定結果は、編集することができません。

10-5. データ表示

「データ表示」をクリックすると、「転送データ一覧」で選択しているユニットの測定データが表示されます。
※「7-8. データ表示」と同じです。そちらを参照してください。

11. 終了

メインメニューで「終了」を選択すると、データ管理ソフトを終了します。
また、その他の画面で右上の「×」をクリックすると、確認画面が表示され、「はい」をクリックすると、途中からでも終了できます。

	注意	データ管理ソフトを終了する際、測定データ等を保存していない場合はデータが消失しますので注意してください。
--	-----------	--